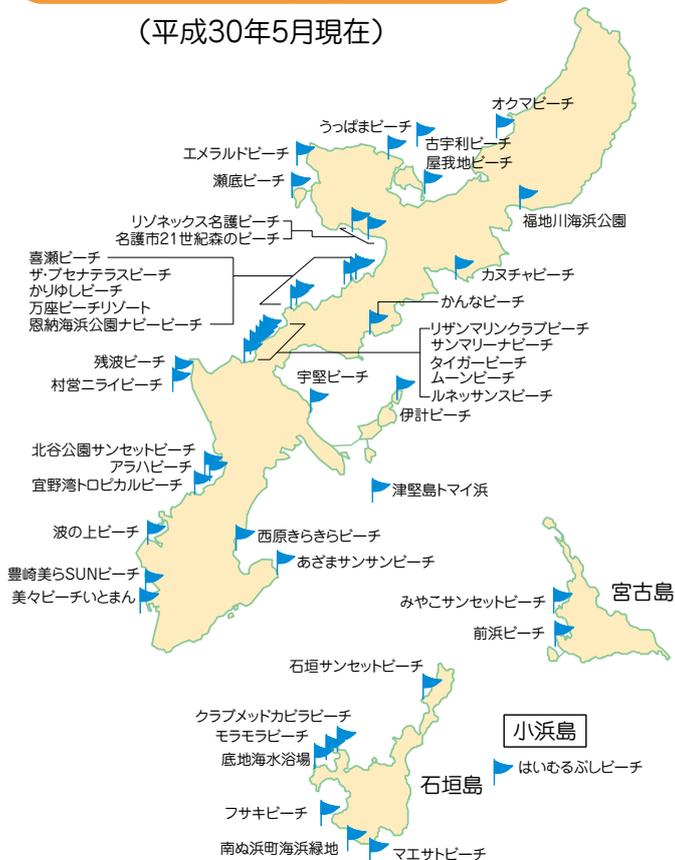


クラゲネット設置ビーチ

(平成30年5月現在)



気をつけよう!!
海のキケン生物

- クラゲネット設置ビーチの調査対象は条例に基づく届出がある海水浴場です。
(沖縄県水難事故の防止及び遊泳者等の安全の確保等に関する条例)
- このリーフレットは25,000部増刷し、1部当たりの印刷単価は8円(1円未満切捨て)となっています。
- ビーチによってネットの設置時期が異なるため、現在ネットを張っていない場所がある可能性があります。
お出かけの際は直接ビーチに確認することをお勧めします。



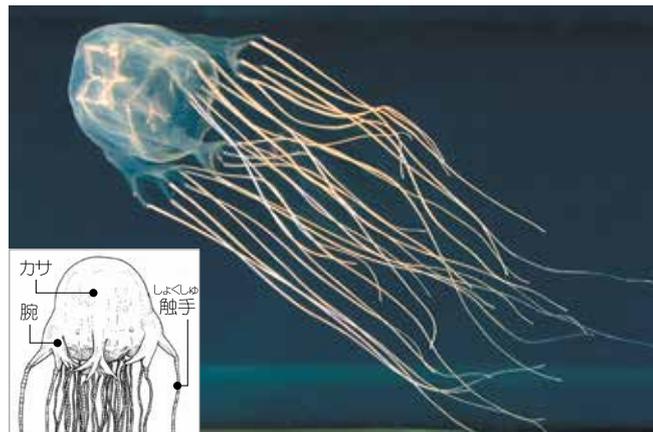
HPIはコチラ!!

 沖縄県

沖縄美ら海水族館
Okinawa Churaumi Aquarium

ハブクラゲ

5 ~10月頃に発生するクラゲです。県内ほぼ全域に分布しています。水深50cmほどの浅い場所にもきます。刺されるととても痛く、ショックを起こすこともあります。これまでに3人の死亡者がいます。ハブクラゲが大きくなる7月~9月に被害が多くなります。

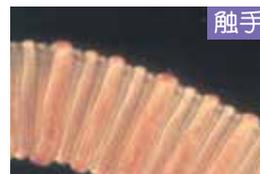


しよくしゆ
触手はエサをつかまえるために使います。カサからは4本の腕が出て、そこからひも状の触手が伸びています。成長すると、カサの高さが10cm以上、のびちぢみする触手は150cm以上になることもあります。



カサが半透明なので見つけにくいクラゲです。

しよくしゆ しほう
触手には刺胞(毒針と毒液が入ったカプセル)がたくさんあり、何かに触れると毒針が飛び出し、毒を注入します。



↓ 刺激すると...



たくさんの毒針が飛び出しています。



刺傷例

応急処置 (ハブクラゲ)

- ① 刺されたらすぐに海からあがる
刺された部分は絶対にこすらない
- ② 酢(食酢)をたっぷりかける
- ③ 触手を手でそっと取り除く
- ④ 痛いときは氷や冷水で冷やす



呼吸や心臓が止まった場合は、すぐに人工呼吸、心臓マッサージを行う

ハブクラゲに刺されないためには・・・

- クラゲネットの中で泳ぐ(裏表紙)。
 - クラゲネットがない場所では、ウェットスーツや長そでTシャツ、スパッツなどを着用し、肌の露出を少なくする(刺されても毒針が皮フまでとどきません)。
- ※ 完全に被害を防げるわけではなく、被害を最小限にできるということです

刺された時のために・・・

- 応急処置法をおぼえておく
- 近くの病院を確認しておく

なぜ酢がいいの？

- 触手にはたくさんの刺胞があるので、ちょっとさわっただけでは全部の刺胞は発射されません。ですから、ハブクラゲに刺されたところに触手がくっついていいる時は、絶対にこすったりしてはいけません。こするとそれが刺激となって、残っている未発射の刺胞が発射して傷が広がってしまいます。酢には刺胞の発射を止めるはたらきがあります。そのために応急処置に使うのです(アルコール類では刺胞の発射を止めることはできません)。残念なことに、酢が役立つのはハブクラゲだけで、カツオノエボシやウンパチイソギンチャクなどは、逆に刺胞を発射させてしまうこともあります。

ウンバチイソギンチャク

- 直径10～20cmのイソギンチャクで、とても強い毒をもっています。イノー（礁池）でみかけます。潮干狩りやシュノーケリング中などに気づかずに刺されることがあります。症状が長びいたり、腎臓じんぞうなどが悪くなる場合もあるので、刺された場合は必ず病院でみてもらいましょう。



表面をよく見ると、刺胞がたくさんつまった刺胞球（1～2mm）があります。

岩にくっついている海藻と見まちがえることがあります。



しほうきゅう
刺胞球（未発射）



刺胞球（発射後）



刺傷例

フサウンバチイソギンチャク

- 糸満市の大度海岸で見つかったイソギンチャクです。うすいはだ色で、人の指くらいの突起がたくさんあります。指のような突起には刺胞球がたくさんあります。



カツオノエボシ

- 外洋性のクラゲで、風の強い日に岸に打ちよせられることがあります。青い浮きびくろ（気胞体）で水面に浮き、その下面には数本の長い触手がたれ下がっています。



海水で刺胞球や触手をあらい流し、氷や冷水で冷やす。※酢は絶対に使わないで下さい。

イモガイの仲間

- から殻の長さが10cmくらいになる大きな巻き貝で、赤茶色の網目もようがあります。あみめ神経毒しんけいどくなので刺されても痛みはほとんどありませんが、すぐに体がしびれ、おぼれる危険性があります。これまで多くの死亡例が報告されています。



アンペイナガイ

← 体の中に毒銚もり(しぜつし歯舌歯)をもっています。



↑
口から毒銚もりを発射します。



→ 刺傷例。傷あととはほとんどわかりません。

ウミヘビの仲間

- ウミヘビはコブラの仲間しんけいどくで強い神経毒をもっています。咬かまれると神経がマヒして動くことができなくなります。ウミヘビの方から近よってくることもあります。絶対にいたずらしないことです。



マダラウミヘビ



歯は短いけど、毒は強い。ハブのようなキバはありません。



ヒロオウミヘビ



清潔にして、早急に病院へ運ぶ。

ヒョウモンダコの仲間

- 体長12cmくらいの小さなタコです。おどろいたりすると青いもようがあざやかになり、きれいに見えます。さんご礁の岩穴や石の下などにすんでいます。フグと同じ毒(テロトキシン)をもっています。



じみな色がおどろくとあざやかに…

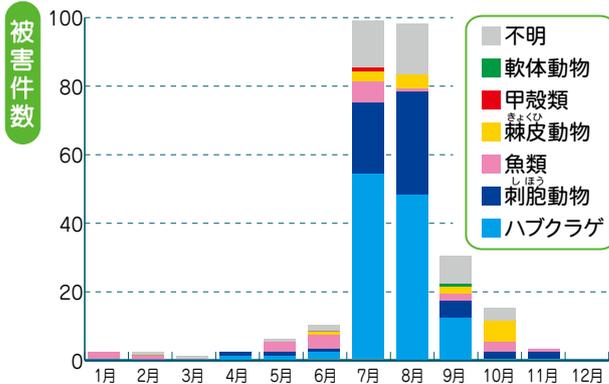
足^かのつけ根にある口で咬みます



口で吸い出さず(飲み込むと危険)
清潔にして早急に病院へ運ぶ

被害発生状況

- 海のキケン生物による被害が毎年250~300件ほど報告されています。夏に発生する被害の多くはハブクラゲによるもので、7月、8月に集中しています。これは、ハブクラゲが大きくなる時期と、たくさんの人が海水浴へ行く時期が重なるためだと考えられています。海のキケン生物は、人間を攻撃するために毒をもっているわけではなく、エサをつかまえたり、身を守るためにもっているのです。生物の習性をよく知り、人間が気をつけて海にはいることで、その被害を少なくすることができます。



平成29年

- 刺胞動物：クラゲ、イソギンチャク、サンゴなど
- 甲殻類：カニ、エビなど
- 棘皮動物：ウニ、ヒトデなど

アナフィラキシー

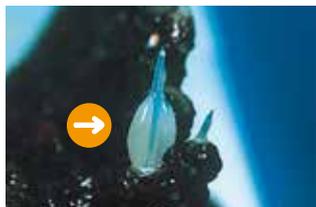
- 海のキケン生物による刺咬症^{しつ}により、まれにアナフィラキシーを発症する場合があります。発症した場合は、速やかに病院に行くようにしてください。

オコゼの仲間

- 色や形が石や岩によく似ている上に、じっとして動かないので知らずに踏みつけて刺されることがあります。砂の中にもぐっていたり、浅いところにもいるので注意が必要です。



オニダルマオコゼ



背ビレに毒が入った袋があります。背ビレの骨はとても硬く、ゴム底の靴などは突き通します。

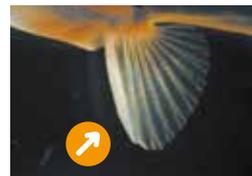


砂中にもぐっている

ゴンズイ



背ビレと胸ビレに毒トゲをもちます。釣れたゴンズイを針からはずす時は注意しましょう。



胸ビレの毒トゲ

ミノカサゴの仲間

- 背ビレと腹ビレ、しりビレに毒があります。動きはゆっくりで、近づいてもあまり逃げません。



おどろかせると背ビレをしかくたてて威嚇します。



目にみえる大きなトゲは取り除き、40～45℃程度のお湯につける。ビニール袋にお湯を入れ患部に当ててもよい。やけどに注意。

オニヒトデ

- 直径30cmくらいで、毒のあるトゲのついた腕を10～17本もっています。昼間はテーブルサンゴなどの下に隠れていることもあるので、むやみに手を入れないようにしましょう。



ガンガゼ

- トゲは折れやすく、刺されるとはげしい痛みがあります。折れたトゲが体内に残っていることもあるので病院でみてもらいましょう。



ラップウニ

- 直径10cmくらいのウニで、体表一面に毒をもつラップのようなトゲ(叉棘)があります。叉棘が閉じることで刺され(咬まれ)ます。



さきよく
開いた叉棘



さきよく
閉じた叉棘



目にみえる大きなトゲは取り除き、40～45℃程度のお湯につける。ビニール袋にお湯を入れ患部に当ててもよい。やけどに注意。

海のキケン生物についてのお問い合わせは…

沖縄県保健医療部衛生業務課：098-866-2055

衛生環境研究所(衛生生物班)：098-987-8223

<http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/>

北部保健所(生活環境班)：0980-52-2636

中部保健所(生活衛生班)：098-938-9787

南部保健所(生活衛生班)：098-889-6799

宮古保健所(生活環境班)：0980-72-3501

八重山保健所(生活環境班)：0980-82-3243